



サハリン樺太史研究年報

2024 年

2025 年 06 月 04 日

北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室

—サハリン樺太史研究年報 2024 年—

目次

- 研究動向
- 研究会・関連シンポジウム等
- 研究成果刊行物
- 研究プロジェクト

年報刊行について

サハリン樺太史研究会は 2008 年 7 月に発足し、2011 年に公式 Web サイトを開設、その後、『サハリン樺太史研究会年度活動報告書』の刊行を続けてきましたが、当初から編集を担ってきた中山大將は 2022 年度版を最後に『年度活動報告書』の編集を辞することになりました。これは、2023 年に同研究会の新たな発展のために、同研究会発足時からのメンバーである中山が世話人会からぬけることにしたからです。

とは言え、毎年のサハリン樺太史研究の進展を記録していくことには大きな意義があるため、同様の作業は行ない続けたいと考え、『サハリン樺太史研究年報』を編集し、北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室として刊行することにいたしました。

本『年報』と旧『報告書』の大きな違いとしては、年度ではなく年ごとの編集（ただし研究費の情報は年度ごと）、同研究会例会以外の関連学術イベントの情報の記載、同研究会の会員・非会員の区別の撤廃が挙げられます。

本報告書記載の情報の一部はインターネット上の情報を参照したものであり、若干の不正確さが残っていることがあり得ます。また、正確性は期していますが、なるべく多様な情報を載せるため網羅性や完全性はあまり重視しないという編集方針をとることにしました。たとえば、学術イベントについては把握しきれていないものもあることは承知したうえで把握できたものだけを記載しておりますし、文献なども書誌情報が不完全でも把握しきれた範囲の情報を記載しています。

本『年報』によって、完全にまでとはいかないものの、日本国内外におけるサハリン樺太史研究の全体的動向を俯瞰することが可能になればと願っております。

2025 年 06 月 04 日

代表編者 中山大將

（北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室准教授）

—研究動向—

工藤信彦『「樺太・紙の博物館」にむけて』刊行

樺太出身で『わが内なる樺』(石風社、2008 年)の著者である工藤信彦は、2019 年に『職業としての「国語」教育』(石風社)、2022 年に『樺太覚書』(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター)を関係者の協力を経て刊行していたが、2024 年にはさらに『「樺太・紙の記念館」にむけて』を刊行した。

同書は、工藤信彦が編集者としてかかわっていた全国樺太連盟の機関紙『樺連情報』に執筆した記事や編集後記(「余言抄」)を収録している。『樺太覚書』などの著作と合わせることで、樺太思想史の到達点を知ることができる。

麻田雅文『日ソ戦争』刊行

中公新書として麻田雅文『日ソ戦争』が刊行された。2023 年には、富田武『日ソ戦争南樺太・千島の攻防』(みすず書房)と日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』(勉誠出版)が刊行されており、この 2 年間で多くの日ソ戦争研究の成果が世に出ることとなり、樺太戦を含め日ソ戦争の新たな標準が示されることとなった。

「国境歴史学」の胎動:「国境変動と近代樺太」

2024 年 6 月に開催された第 37 回日露関係史研究会では、「国境変動と近代樺太」という企画が実施された。これは、「国境歴史学」を標榜する醍醐龍馬の主導により、その研究実践を示すものであった。サハリン島のこうした史的特徴をとらえた歴史学運動が、より普遍的な研究分野を生み出すことを期待する。

サハリン樺太史研究会の世話人交代

2008 年に発足したサハリン樺太史研究会は、第 3 代白木沢旭児会長の退職・退任にあわせて、大幅な世話人会の交代を行なった。白木沢旭児のほか、天野尚樹、醍醐龍馬、中山大将が退任し、井濤裕、竹野学、兎内勇津流が留任、そしてジョナサン・ブル、木村由美、藤本健太郎が新たに加わった。新しい展開が期待される。

—研究会・関連シンポジウム等—

サハリン樺太史研究会第 69 回例会

日時:2024 年 02 月 17 日

場所:北海道大学人文社会科学総合教育研究棟(W 棟) W202 室および Zoom によるオンライン方式

書評会 日ソ戦争史研究会編『日ソ戦争史の研究』勉誠出版、2024 年

評者 藤村建雄(北海道大学大学院)

木村聡 (別府大学)

主催 サハリン樺太史研究会

日本史研究会近現代史部会

日時:2024 年 02 月 17 日

場所:機関誌会館 2 階・日本史研究会事務所および Zoom によるオンライン方式

(以下はサハリン樺太史研究関連のみ記載)

報告 樺太庁官僚の人事:「守屋栄夫文書」の分析を中心に……………野善斗(名古屋大学大学院)

主催 日本史研究会近現代史部会

サハリン樺太史研究会第 70 回例会

日時:2024 年 03 月 23 日

場所:北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター大会議室(403)および Zoom によるオンライン方式

報告 樺太の炭鉱労働者の再就業プロセスに見る複層化された移動……………平井健文(北海道教育大函館校)

報告 「樺太庁警察部の成立と展開」……………石子智康 (北海道博物館)

主催 サハリン・樺太史研究会

■日露関係史研究会第 37 回

日時:2024 年 06 月 08 日

場所:かでの2・7(札幌市)

企画報告「国境変動と近代樺太」

趣旨説明……………醍醐龍馬(大阪大学)

報告 明治期におけるサハリン島の漁場経営とその展開:恵比須屋岡田家を事例に ……菅原慶郎(東京理科大学)

報告 成富道正の「樺太史講話」(1924 年)について……………兎内勇津流(北海道大学)

報告 樺太の国境を巡る日本領地域の人々交流・観光・警衛の歴史 ―……………鈴木仁(北海道大学)

共催 日露関係史研究会、北海道史研究協議会

■サハリン樺太史研究会第 71 回例会

日時:2024 年 07 月 13 日

場所:北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター大会議室(403)および Zoom によるオンライン方式

報告 メディアが映す日本統治下の樺太観光:「オタスの杜」先住民観光をめぐる言説を中心に……………
……………井出晃憲(「合同会社浅間山文庫」代表)

報告 樺太からの引揚者と戦後北海道……………木村由美(北海道大学文学研究院専門研究員)

主催 サハリン樺太史研究会

■日本植民地研究会第 32 回全国大会

日時:2024 年 07 月 20 日

場所:早稲田大学・早稲田キャンパス 3 号館 701 教室

(以下はサハリン樺太史研究関連のみ記載)

報告 1910~1920 年代樺太鉱業における朝鮮人・中国人……………張間丈(北海道大学・院)

評者 竹野学(北海商科大学)

主催 日本植民地研究会

釧路文学館企画展「荒澤勝太郎と植物」関連講演会

日時:2024 年 07 月 21 日

場所:釧路市図書館

講演 荒澤勝太郎を育てた樺太の自然と社会:つながる樺太と釧路の湿原……………中山大将(北海道大学)

主催 釧路文学館

サハリン樺太史研究会第 72 回例会

日時:2024 年 09 月 21 日

場所:北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター大会議室(403)および Zoom によるオンライン方式

報告 多民族共存社会としての第二次世界大戦後の南サハリン ……ダリア・コジェブニコワ(北海道大学文学院)

報告 考古資料と民具からみた樺太アイヌ……………関根達人(弘前大学)

主催 サハリン樺太史研究会

国際研究集会「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメント:学際的・国際的アプローチによる研究成果の報告」

日時:2024 年 12 月 07 日

場所:国立歴史民俗博物館ガイダンスルーム

(以下はサハリン樺太史研究関連のみ記載)

報告 冷戦期のエゴドキュメントから考える「近代東アジア」—サハリン朝鮮人・柳時郁の「山中半月記」

……………宋恵媛(大阪公立大学教授)

主催 国立歴史民俗博物館共同研究(基盤研究)「近代東アジアにおけるエゴ・ドキュメントの学際的・国際的研究」

—研究成果刊行物—

(五十音順:日本氏名以外もカナ表記順)

- 【著編】相庭達也『明治期北海道の兵士たち：徴兵・戦没・慰霊』北海道大学出版会、2024 年 4 月。
- 【雑誌】阿子島香「伊東信雄氏の南樺太調査とその後」『東北史学会 歴史』第 142 号、2024 年 4 月。
- 【著編】麻田雅文『日ソ戦争：帝国日本最後の戦い』中央公論新社、2024 年 4 月 22 日。
- 【論集】麻田雅文「第 20 章 日露戦争から日露同盟へ：対立から戦略的互惠関係へ」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【論集】麻田雅文「第 21 章 シベリア出兵から日ソ国交樹立へ：関係再構築までの苦闘」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【論集】麻田雅文「第 22 章 満洲事変から日ソ戦争まで：スターリンとの対決」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【雑誌】浅田進史「書評 原暉之・兎内勇津流・竹野学・池田裕子編著『日本帝国の膨張と縮小：シベリア出兵とサハリン・樺太』」『日本植民地研究』第 36 号、2024 年。
- 【論集】天野尚樹「第 19 章 流刑地としてのシベリア・極東：ロシアの「島」」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【論集】天野尚樹「第 68 章 サハリン州をめぐるさまざまなボーダー：サハリン島とクリル諸島」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【雑誌】井出晃憲「メディアが映す日本統治下の樺太観光：「オタスの杜」先住民観光をめぐる言説を中心に」『境界研究』第 14 号、2024 年。
- 【著編】植田展大『「大衆魚」の誕生：戦間期における水産物産業の形成と展開』東京大学出版会、2024 年 2 月 26 日。
- 【雑誌】ウラジミロワ ウラジスラワ「先住民女性のエンパワーメント」『北方民族文化シンポジウム網走報告書』第 37 号、2024 年 3 月 19 日。
- 【雑誌】大喜多紀明「樺太アイヌ口承テキストの分析と裏返し構造：最後の話者である浅井タケのトウイタハ資料から」『國學院雑誌』第 125 巻第 7 号、2024 年 7 月。
- 【雑誌】大坂拓「1876 年奥羽巡幸の奉迎に立ったアイヌの姿：「対雁に移る途上、小樽に上陸した樺太アイヌ一行」説の訂正」『札幌博物場研究会誌』第 2024 年号、2024 年 11 月 27 日。
- 【雑誌】大谷梨乃「エドゥアルド・ヴェルキン『サハリン島』におけるサハリン表象」『北海道大学大学院文学院 研究論集』第 23 号、2024 年 1 月 25 日。
- 【論集】大西秀之「第 13 章 古代・中世のロシア極東と北海道：極東史から見たアイヌ民族の形成」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【雑誌】松本和子、高田三枝子、吉田さち、奥村晶子「樺太日本語における朝鮮語・ロシア語の影響：言語接触に誘発された音声変異に関する探索的研究」『方言の研究』第 10 号、2024 年 7 月。

*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【雑誌】小野洋平、深澤美香「比較不可能だったアイヌ語方言分類：統計的方言分類を類似判断の点から再考する」『アイヌ・先住民研究』第 4 号、2024 年 3 月 29 日。
- 【雑誌】北原モコットウナシ、山道ムカラ、山田チケンキオ「ウポポイにおける樺太アイヌのイヨマンテ展示：研究教育機関における文化復興」『北海道民族学』第 20 号、2024 年。
- 【雑誌】木村由美「樺太大泊町から北海道への引揚げ」『日本植民地研究』第 36 号、2024 年。
- 【著編】工藤信彦著、松田晃編『「樺太・紙の記念館」にむけて：記憶を歴史に』石風社、2024 年 5 月 1 日。
- 【資料】A・J・フォン・クルーゼンシュテルン（山本秀峰編訳）『クルーゼンシュテルン日本周航記：一八〇四年～一八〇五年ロシア艦ナジェージダ号長崎・蝦夷地・樺太滞在記』露蘭堂、2024 年 11 月。
- 【雑誌】黒田伸「戦争遺産をめぐる旅(97)樺太と結んだ海底ケーブル 知られざる猿払電話中継所」『北方ジャーナル』第 53 巻第 1 号、2024 年 1 月。
- 【論集】駒木明義「第 41 章 日露間の北方領土問題：「0 島返還」路線に戻ったプーチン政権」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【論集】米家志乃布「第 14 章 シベリアの地域情報収集と地図化：ロシアによるシベリア・極東進出の歴史①」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【論集】米家志乃布「第 15 章 ロシアの近代学術調査と探検：ロシアによるシベリア・極東進出の歴史②」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5 月 31 日。
- 【雑誌】是澤櫻子「20 世紀前半の樺太先住民族のコレクション形成史における石田収蔵資料の位置づけについて」『北海道民族学』第 20 号、2024 年。
- 【雑誌】阪口諒「千徳太郎治が記録した樺太方言テキストを読む」『アイヌ語地名研究』第 27 号、2024 年 12 月 15 日。
- 【論集】佐藤正則、三代純平「公共性から考えるサハリン残留日本人：帰国者支援の変遷と永住帰国者の語りから」牛窪隆太、福村真紀子、細川英雄編著『ことばと公共性：言語教育からことばの活動へ』明石書店、2024 年 10 月。
- 【雑誌】新谷嘉浩「太田勝馬論文にみる樺太盲啞教育の状況と豊原盲啞学院」『近畿聾史研究グループ聾歴史研究』第 95 号、2024 年 8 月。
- 【雑誌】須川忠輝「明治地方自治制の地方制度特例とその制度設計：日本統治下の樺太における地方自治の発展」『年報行政研究』第 59 号、2024 年 5 月。
- 【雑誌】鈴木仁「樺太時代の荒澤勝太郎：『樺太文学史』執筆の背景」『釧路市立博物館紀要』第 42 号、2024 年 3 月。
- 【雑誌】醍醐龍馬「維新政府の樺太政策 1869～1871：万国対峙の模索と日露関係」『阪大法学』第 74 巻第 3-4 号、2024 年 11 月 30 日。

*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【資料】高島屋史料館 TOKYO 編『ジャッカ・ドフニ：大切なものを収める家：サハリン少数民族ウイ
ルタと「出会う」』図書出版みぎわ、2024 年 8 月。
- 【雑誌】松本和子、高田三枝子、吉田さち、奥村晶子「樺太日本語における朝鮮語・ロシア語の影響：言
語接触に誘発された音声変異に関する探索的研究」『方言の研究』第 10 号、2024 年 7 月。
- 【著編】高橋英樹『サハリン島の植物』北海道大学出版会、2024 年 2 月。
- 【著編】高橋大輔『国境の人間宮林蔵：探検家にして幕府隠密、謎多き男の実像を追う』草思社、2024
年 3 月。
- 【雑誌】高橋英樹「菅原繁蔵『樺太植物誌』(1975)の植物図について(2)」『北方山草』第 41 号、2024
年。
- 【著編】高橋亮一『北方海域をめぐる国際政治史：明治期日本の海獣猟業』日本経済評論社、2024 年
2 月 22 日。
- 【雑誌】田澤守「樺太アイヌ・エンチウとして生きる」『自主の道』、2024 年。
- 【雑誌】田畑保「樺太引き揚げ三船遭難の悲劇」『ポストーク』第 58 号、2024 年 7 月。
- 【雑誌】田村将人「書評 加藤絢子著『帝国法制秩序と樺太先住民：植民地法における「日本国民」の
定義』」『ロシア史研究』第 112 号、2024 年。
- 【雑誌】ユリア・ディン(天野尚樹・宋恵媛訳)「サハリン朝鮮人とソヴィエト社会(1945-1991
年)(上)」『コリアンスタディーズ』第 12 号、2024 年。
- 【雑誌】中村和之「フランス国立図書館蔵『職貢図』の「庫野」について」『法政大学国際日本学研究所
国際日本学』第 21 号、2024 年 2 月 10 日。
- 【雑誌】中山大将「慰霊碑が語ること語らないこと：日ソ戦争が生み出した樺太住民の故郷喪失」『同志
社大学人文研ブックレット』第 80 号、2024 年 1 月 25 日。
- 【論集】中山大将「第 24 章 サハリン残留朝鮮人とサハリン残留日本人：〈樺太〉と〈サハリン〉を生きた
人々」服部倫卓、吉田睦編著『ロシア極東・シベリアを知るための 70 章』明石書店、2024 年 5
月 31 日。
- 【論集】中山大将「釧路産炭地域の遺構に未来を見る」山田良介『ダークツーリズムを超えて：北海道と
九州を結ぶ』国境地域研究センター、2024 年 11 月 10 日。
- 【雑誌】檜木貴美子「樺太アイヌ＝エンチウの「戦後」」『北海道大学 CATS 叢書』第 18 号、2024 年。
- 【雑誌】小野洋平、深澤美香「比較不可能だったアイヌ語方言分類：統計的方言分類を類似判断の点
から再考する」『アイヌ・先住民研究』第 4 号、2024 年 3 月 29 日。
- 【資料】北海道博物館編『全国樺太連盟資料』北海道博物館、2024 年 3 月。
- 【著編】工藤信彦著、松田晃編『「樺太・紙の記念館」にむけて：記憶を歴史に』石風社、2024 年 5 月 1
日。
- 【雑誌】松本和子、高田三枝子、吉田さち、奥村晶子「樺太日本語における朝鮮語・ロシア語の影響：言
語接触に誘発された音声変異に関する探索的研究」『方言の研究』第 10 号、2024 年 7 月。
- 【雑誌】松山紘章「「樺太土佐村」への移住者募集史料」『高知市立自由民権記念館紀要』第 28 号、
2024 年 3 月。

*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌な
どの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

- 【雑誌】三木理史「樺太輸送経路の形成と稚内の港湾都市誌：宗谷（本）線と鉄道省営稚泊鉄道連絡航路の形成をめぐって」『ジオグラフィカ千里』第 3 号、2024 年 3 月 2 日。
- 【雑誌】水野善斗「【部会報告要旨】樺太庁官僚の人事：「守屋栄夫文書」の分析を中心に」『日本史研究』第 746 号、2024 年 10 月。
- 【論集】佐藤正則、三代純平「公共性から考えるサハリン残留日本人：帰国者支援の変遷と永住帰国者の語りから」牛窪隆太、福村真紀子、細川英雄編著『ことばと公共性：言語教育からことばの活動へ』明石書店、2024 年 10 月。
- 【雑誌】水野善斗「大日本帝国と樺太：樺太関係者の私文書の調査・分析から」『名古屋大学大学院人文学研究科教育研究推進室 年報』第 2022 年号、2024 年 1 月 31 日。
- 【著編】山喜多佐知子編、武井哲史撮影『日本の犬：故郷を訪ね、そのルーツや特徴、姿形、系統、保存活動から、知られざる在来犬の原点をさぐる』誠文堂新光社、2024 年 11 月。
- 【著編】山口精・山口進共著『北日本汽船航海記 改訂版』ディアグルーヴ、2024 年 3 月 31 日。
- 【著編】山口精・山口進共著『北日本汽船航海記 改訂版』ディアグルーヴ、2024 年 3 月 31 日。
- 【雑誌】北原モコットウナシ、山道ムカラ、山田チケンキオ「ウポポイにおける樺太アイヌのイヨマンテ展示：研究教育機関における文化復興」『北海道民族学』第 20 号、2024 年。
- 【論集】山田祥子「コラム 3 北方少数民族ウイльтаの生活と文化」中川裕『ゴールデンカムイ 絵から学ぶアイヌ文化』集英社、2024 年 2 月 16 日。
- 【雑誌】山田祥子「サハリン先住民ウイльтаの文学(1)」『北海道言語文化研究』第 22 号、2024 年 3 月 31 日。
- 【雑誌】Yoshiko Yamada, "On the legend of the 'Taraika Conflict' handed down by the Sakhalin indigenous peoples" *Altai Hakpo*, 34 号, 2024 年 6 月。
- 【論集】山田祥子「訪ね合う間柄でも、理解不足から争いに：ウイльтаが語る「タライカのたたかい」とアイヌ」佐々木史郎・北原モコットウナシ（監修・著）『最新アイヌ学がわかる』エイアンドエフ、2024 年 10 月 30 日。
- 【雑誌】北原モコットウナシ、山道ムカラ、山田チケンキオ「ウポポイにおける樺太アイヌのイヨマンテ展示：研究教育機関における文化復興」『北海道民族学』第 20 号、2024 年。
- 【雑誌】山本彩乃「樺太における緊急疎開の制度的研究」『道歴研年報』第 25 号、2024 年。
- 【雑誌】山本泰照「樺太移住・引揚者の生活：珍内町真宗大谷派布教所の生活を例として(2)」『長野県民俗の会会報』第 47 号、2024 年 12 月。
- 【雑誌】松本和子、高田三枝子、吉田さち、奥村晶子「樺太日本語における朝鮮語・ロシア語の影響：言語接触に誘発された音声変異に関する探索的研究」『方言の研究』第 10 号、2024 年 7 月。
- 【雑誌】李 俊 栄, Общественная Деятельность Корейцев, Проживавших На Сахалине До «Принудительной Мобилизации» (1938): На Примере Городов Сиритору И Эсутору (1938 年、強制動員が行われる前の樺太の朝鮮人社会：知取と恵須取を中心に), 《Вестник Сахалинского музея》第 2023 巻第 1 号、2023 年。
- 【資料】『明治大正期帝国信用録 第 3 期第 10 巻大正 4 年(4)』クロスカルチャー出版、2024 年 9 月。

*【著編】…著書、編書、翻訳書など。【論集】…定期刊行物以外の文献に掲載された論文など。【雑誌】…学術誌、紀要、会誌などの定期刊行物に掲載された論文など、【資料】…資料集や回想記など。

—研究プロジェクト—

(代表者五十音順)

- [新規]木村由美(北海道大学)「『引揚者在外事実調査票』の分析結果にみる樺太豊原市からの引揚げと戦後の定着」科学研究費補助金・研究活動スタート支援、2024-2025 年度。
- [新規]佐藤正則(山野美容芸術短期大学)「永住帰国したサハリン残留日本人2世3世の複言語・複文化的な言語経験と社会関係資本」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2024-2026 年度。
- [最終]澤田和彦(埼玉大学)「近代日露交流史の諸問題に関する実証的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2024 年度。
- [最終]醍醐龍馬(小樽商科大学)「近代日露関係の平等性に関する研究—ロシア側未刊行史料からのアプローチ」科学研究費補助金・挑戦的研究(萌芽)、2022-2024 年度。
- [継続]醍醐龍馬(大阪大学)「日露国境の変遷とその影響に関する学際的研究:「歴史国境学」創出への挑戦」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2023-2025 年度。
- [新規]丹菊逸治(北海道大学)「アイヌ叙事詩の朗唱法記述と成立史の研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2024-2028 年度。
- [継続]兎内勇津流(北海道大学)「シベリア出兵の「現場」と日露両国の外交構想」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2023-2026 年度。
- [継続]中山大将(釧路公立大学)「旧日本帝国圏における残留の統合的研究: 冷戦期日本における在外国民の国民再編問題」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2023-2025 年度。
- [継続]ノヴァコフスキ カロル(東北公益文科大学)「言語の記録保存のための音声認識技術の研究: 樺太アイヌ語に着目して」科学研究費補助金・若手研究、2022-2026 年度。
- [継続]福田正宏(東京大学)「日露共同調査によるサハリン新石器時代社会形成過程の解明」科学研究費補助金・国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B))、2021-2025 年度。
- [継続]福田正宏(東京大学)「宗谷海峡域における新石器/縄文時代生活史の実態解明」科学研究費補助金・基盤研究(B)、2022-2025 年度。
- [最終]山田祥子(室蘭工業大学)「ウイльта語の統合的な記録・記述と資料化: 音声・グロス・訳付き資料の作成と公開」科学研究費補助金・研究活動スタート支援、2023-2024 年度。
- [最終]吉田さち(跡見学園女子大学)「在日コリアンおよび在樺コリアンにおける言語接触・方言接触に関する社会言語学的研究」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2020-2024 年度。
- [新規]林采成(立教大学)「日本帝国における私鉄の政策と実態に関する史的研究: 日本、朝鮮、台湾、樺太」科学研究費補助金・基盤研究(C)、2024-2027 年度。
- [継続]BAEK SANGYUB(室蘭工業大学)「サハリンエウエンキ語の記述: サハリンにおける言語接触とその歴史的変遷の解明」科学研究費補助金・若手研究、2021-2025 年度。

* 掲載している研究プロジェクトは、サハリン樺太史関連のもののほか、周辺地域・領域をテーマにする物も含んでいる。[新規]…今年度より開始したもの。[継続]…中間年度にあたるもの。[最終]…最終年度にあたるもの。[単年]…今年度開始した単年度のものの。

= = = = =

サハリン樺太史研究年報 2024 年

発行日：2025 年 06 月 04 日
編集者：中山大将、張間丈
発行者：北海道大学大学院経済学研究院地域経済史研究室
<https://locaregionaleconomicichistory.econ.hokudai.ac.jp/>

= = = = =